

2023年1月12日 Vol.206

### 令和5年のIPO市場に期待するもの

令和5年もはや12日目となり、昨年の師走相場に続き穏健なスタートとなった大発会以来6日間の株式取引がなされ徐々に投資家の皆さんの関心が高まりつつあるようです。私事ながら昨年末にコロナ感染が判明し体調を整える中、本誌での年末年始のご挨拶が遅れてしまい恐縮です。改めて遅ればせながら本年も宜しくお願いします。

振り返ると昨年の日経平均は28791円から26094円へと9%余り、TOPIXは5%程度の下落でしたが、マザーズ指数は26%もの下落となってしまいました。日本株だけで運用されている投資家各位の運用成果は停滞を余儀なくされたものと思います。様々な懸念要因から今年も年初は各投資家慎重なスタンスで臨んでおられるのではないかと拝察致しておりますが、いつものように山あり谷ありの株式相場。慎重な中にも運用成果を高めようとチャンスを探っておられるのではないかと思います。年初はこうしたやや穏健なムードでのスタートですが今年もこれからIPO市場には数多くの企業が登場します。既に今月26日には前1月期実績売上高が7.9億円、同経常利益0.6億円、従業員35名（80%が技術者）という遊技機向けを中心とした映像ソフトウェア制作、AI等デジタル技術に関連したシステム開発を展開するテクノロジーズ（5248・仮条件上限価格1000円）がグロース市場へ上場予定。その後のIPOも今後発表されることとなります。昨年のIPOは91銘柄（うち25銘柄が12月）で相場環境の悪化から前年に比べ30銘柄以上も減少してしまいました。今年は果たしてどうなりますか。マザーズ指数の停滞が続き今年も需給悪でIPO銘柄数は増えないと思われそうですが、その中でどういう業種、ビジネス内容の企業がIPOを果たすのか注目していきたいと思います。

欧米経済がコロナ禍の影響から抜け出す中で日本経済はなかなか浮上してきませんが、株式相場はそうした経済状況を反映して上値の重い状況となっています。年初は円安が一服しているものの、ウクライナ問題長期化の流れで電気代や食品価格が上昇。物価高の話でスタートした日本経済に今度はユニクロの人件費最大4割のアップと連鎖反応が出始めている状況ですが、インバウンド復活などもあり、コロナ禍から脱却し多少でも浮上を期待したいところです。米国の政策金利動向次第で日米欧の株式相場は変動することになりそうですが、少子高齢化が進展する日本経済にとっては生産性向上、DX化、AI化などによる恩恵が本格的にもたらされる年となってくれればと期待されます。今後の成長が期待される企業のIPOが株式市場を牽引するにはそれぞれの企業内容が理解され、投資家のリスクマネーを呼び込む努力が求められます。昨年のIPO銘柄は投資家各位の選別色が強まって二極化の動きが見られますが、投資家に事業内容や今後の成長の方向性を正しく理解してもらうための積極的なIR活動を大いに期待したいと思います。日本経済成長の好循環となるベンチャー企業創出とIPO市場の活発化は車の両輪のようなもの。今年も様々なIPO企業に対し皆様とともにその動向を注目していきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

## 東京 IPO 特別コラム

---

\*昨年12月14日に作成していた特別コラムが手違いで掲載されていなかったようですので今回改めて同時に掲載させていただきます。悪しからずご了承下さい。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)